

本業を通じた CSR と社会貢献活動

—コマツにおける CSR 活動

コマツ CSR 室長
倉澤佳子

コマツは建設・鉱山現場で使用される油圧ショベル、ダンプトラックといった機械や、自動車製造向けのプレス機械等を製造しており、ICT ソリューションとともに顧客に提供している。

1921年に石川県小松市で創業し、社名は土地の名に由来しているが、創業者の竹内明太郎(吉田茂元首相の実兄)が会社の黎明期から「海外への雄飛」を志していた通り、55年に初輸出、67年に海外販社を設立、75年に海外生産を開始し、特に85年のプラザ合意以降は、現地生産を加速していった。90年代以降はマネジメントの現地化にも力を入れ、今日では主要な海外現法の大半で社長・CEOなどの役職を外国人が務めている。2016年4月からは現法外国人トップのうち5人がコマツの執行役員となり、自国のオペレーションだけでなく、グループ事業戦略の意思決定に参

画している。売上の約8割が海外、連結従業員も半数以上が外国人というグローバル企業である。

優先課題と重点分野の特定

コマツが提供する商品・サービスは、生活インフラの建設や資源開発などに使用されるため「事業を通じて社会に役立つ(CSR活動を行う)」という考えは自然に成り立つ。これまでの事業活動を振り返っても、CSRという言葉が定着する前から各地での事業を通じた社員の雇用をはじめ、地域との共生、地球環境保護、安全、ガバナンスや社会貢献活動といった取り組みに力を入れてきた。

そのような中で04年にCSR室を設立、10年には優先課題・分野の特定(マテリアリティ)に着手した。さまざまなCSR課題のうちコマツの事業にとっての重要度と社外ステークホルダーに

図表：コマツのCSR重点分野と重点活動

CSR 重点分野	CSR 重点活動	
	事業を通じた活動	社会貢献活動
①生活を豊かにする —社会が求める商品を提供する—	<ul style="list-style-type: none"> ●インフラ整備と生活の向上に貢献する商品やサービスの提供 ●イノベーションによる生産性/安全性向上・効率化・省エネルギー促進 ●商品の稼働現場と事業所における環境対応 ●商品のライフサイクルにおける環境負荷低減 ●安全性の向上(お客さま、社会、社員、ビジネスパートナー) 	<ul style="list-style-type: none"> ●社会が求める環境対応・安全性向上のための活動や支援 ●社会が求める商品・サービス・技術の支援・無償提供(事例) <ul style="list-style-type: none"> ●ICTブルドーザーによる農業支援 ●インドネシア育苗技術支援 ●中国砂漠緑化支援
②人を育てる	<ul style="list-style-type: none"> ●コマツウェイを通じた人材育成(社員、協力企業) ●ブランドマネジメントを通じた人材育成(社員、代理店) ●社員の尊重、ダイバーシティ 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域社会における人材育成への貢献 ●次世代育成
③社会とともに発展する	<ul style="list-style-type: none"> ●ステークホルダーとの双方向のコミュニケーション ●コーポレートガバナンスとコンプライアンスの徹底 ●ビジネスパートナーを含めた環境・労働・社会規範遵守の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ●災害復興支援(事例) <ul style="list-style-type: none"> ●震災への機材提供、対人地雷処理 ●本業を活かした地域社会貢献